

「BOSAIサイエンスフィールド」

東館3階 リニューアルオープン

2021年6月30日(火)、東館3階「BOSAIサイエンスフィールド」がリニューアルオープンしました。南海トラフ地震等の巨大災害や風水害に備える力、最新の防災知識を楽しみながら学んでいただくことができます。皆さまのご来館をお待ちしています。



コロナ禍により外出を控えている方や来館が困難な方に向けて、西館・東館の展示物を見学いただける3Dビュー&VR映像を無料公開しております。ぜひご利用ください。

▶▶▶ <https://www.dri.ne.jp>

資料室の感染防止対策について

資料室は、感染防止対策をとりながら開室しております。
資料室利用者の皆様には、引き続き、感染防止のご協力をお願いいたします。

滞在時間の短縮にご協力をお願いします

- 閲覧する二次資料は事前に検索システムをご利用下さい。
- 一次資料の閲覧は事前(3日前まで)に申請を行って下さい。
- レファレンス・調べ物は、窓口以外(電話・メール・FAX)をご利用ください。



閲覧席の数を減らしています

- 利用者同士の距離を一定程度保つため、閲覧席の間隔を広げています。
- 利用者間の飛沫感染を防ぐため、私的な会話はお控え下さい。



▲閲覧席には、パーティションを設置しています。

共用機器類の利用停止 (または一部利用停止)

- 不特定多数の方が使用する機器の利用を制限しています。

最新の情報は HP・Facebookで



▲HP



▲Facebook



阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター
The Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial
Disaster Reduction and Human Renovation Institution

資料室ニュース



Vol. **75**

2021年
7月発行

震災資料のメッセージ2021

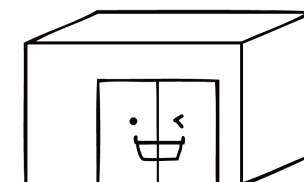
「阪神淡路大震災1.17のつどい～人々の希望を照らす灯火～」

「阪神淡路大震災1.17のつどい」は、阪神・淡路大震災でお亡くなりになった方を追悼するとともに、震災で培われた経験や「きずな・支えあう心」「やさしさ・思いやり」の大切さを次世代へ語り継いでいくため、毎年1月17日に神戸市中央区にある東遊園地で竹灯笼にローソクを灯して行われる追悼行事です。今年は、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう厳しい状況で、感染対策をとった上で開催されました。

コロナ禍でも実施された「阪神淡路大震災1.17のつどい」への思い。その思いを伝える紙灯笼や過去に使用された竹灯笼を展示しています。是非ご覧ください。

6/29(火)～11/28(日)

場所：人と防災未来センター西館3階(有料ゾーン)
「震災の記憶を残すコーナー」



「阪神淡路大震災1.17のつどい」で使用した竹灯笼

竹灯笼には、阪神・淡路大震災で犠牲になった方々への鎮魂や追悼の思いが込められ、毎年1月17日に東遊園地で火を灯しています。

その竹灯笼は、全国の約50団体が竹を切り出して加工し、それぞれの思いを込めて、「阪神淡路大震災1.17のつどい」に提供されています。



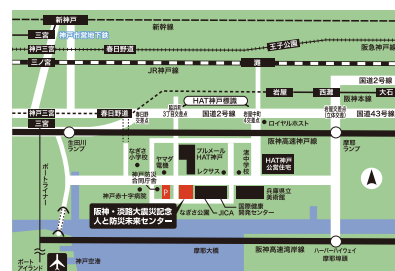
震災資料をお持ちの方に

人と防災未来センターでは、現在も震災資料の収集を続けています。「こんなものでいいのかな?」と、おっしゃる方もなかにはいらっしゃる。寄贈できるか分からないとお考えの方や、震災後、すぐには手放せなかったものの、**震災の出来事を伝えるために活用したい**とお考えの方など、悩んだ際には、**ぜひ一度、資料室までご相談ください。**



(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
DRI 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター資料室

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 人と防災未来センター西館5階
TEL 078-262-5058 FAX 078-262-5062
URL <http://www.dri.ne.jp>
開室時間 9:30～17:30(展示施設とは時間が異なりますのでご注意ください)
閉室日 毎週月曜日(月曜日が祝日又は振替休日の場合は翌平日)
12月29日から1月3日



資料室は無料で
ご利用いただけます



令和2年度「阪神淡路大震災1.17のつどい」 で使用された紙灯笼

紙灯笼は、2014年に広島県で発生した土砂災害の被災地で活用されていました。この紙灯笼は、A4用紙にイラストやメッセージを記入するもので作成しやすく、また、募集することによって会場に来られない多くの人々の思いを届けることが可能となることから、「阪神淡路大震災1.17のつどい」でも取り入れられることになりました。



震災資料専門員って どんなお仕事？

震災資料専門員のお仕事紹介

夏休み特集！小学生のみなさんに、わたしたちのお仕事をご紹介します。夏休みの宿題に、自由研究に、ぜひ資料室を使ってね！

そもそも震災資料って、どんな資料なの？

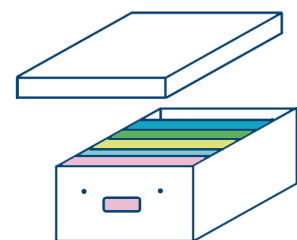
まず、阪神・淡路大震災で被害を受けたもの、大震災から立ち直るなかで使われたり、作られたりしたものがあります。それから、地震などの自然災害や防災について書かれた本や、DVDなどもあります。資料室の中にある「ぼうさいみらい子ども文庫」には、みなさんのための本やカードゲームもご用意していますよ。



震災資料専門員のお仕事とは？

わたしたちは、阪神・淡路大震災や防災について、みなさんが学んだり考えたりするためのお手伝いをしています。たとえば、みなさんが使いやすいように、震災資料をきちんと整理して並べたり、収蔵庫から出してきたりしています。他にも、資料を展示して、みなさんにお見せしたり、みなさんのご質問にお答えして、見たい資料を探すためのお手伝いもしています。

お仕事をする時に気をつけていることは？



震災資料の中には、虫に食べられやすいものもあります。気をつけてさわらなければ、すぐに傷ついてしまうものもあります。時間がたつと自然にいたんでしまうものもあります。収蔵庫に虫がいないか調べたり、薬品を使って資料をいたみにくくしたりすることも、わたしたちの仕事です。みなさんの見やすさ、使いやすさを大事にしながら、資料をずっと先の未来まで大切に残していくために、わたしたちは目立たないところでもがんばっています。

一番やりがいを感じるお仕事は？

専門員によってやりがいはそれぞれですが、わたしの場合は、みなさんからの質問にお答えすることに一番やりがいを感じます。難しいご質問の時には、わたしたちもいっぱい調べものをする。みなさんのために調べものをするのが、わたしたちの勉強にもなります。みなさんも夏休みの宿題や自由研究で災害や防災について調べものをする時には、ぜひ資料室に来て、わたしたちにいっぱい質問してください。みなさんのおこしをお待ちしています。

資料紹介 ～震災とまちづくり～



阪神大震災復興市民まちづくり 支援ネットワーク関係資料

今回、「阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク」に関する資料を紹介します。

阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワークは、『きんもくせい』というA4版4ページのニュースを発行していました。

1995年2月10日に創刊し、震災から2年後の1997年8月27日50号で終刊しました。

『きんもくせい』では、阪神間の復興まちづくりにむけて奮闘している人たちが、

- ①どこで、どのような調査計画に関わったのか
- ②どのような問題に直面したのか
- ③どのような活路を見出しているのか

といった情報を共有できる場となるよう、と願いをこめ作成されました。

なぜ『きんもくせい』なのか？

「震災2週間の神戸から」

私たちの事務所のあった通りは、何軒かの家の小さな前庭も金木犀が植えられて、秋になるといっせいにその金色の小さな花々と匂いにつつまれる。その幅員6mの道を私はひそかに金木犀通と呼んでいた。

1月17日の20秒間に、金木犀通の家々の大半はガレキと化している。

自分たちの街は自分たちで、より堅固で愛しい金木犀通の街をよみがえらせる。

(小林郁雄『きんもくせい』創刊号より)



▲「阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク」関係資料

新着資料

「地震発生時刻で止まった時計」 天川佳美氏寄贈資料

資料番号 540-001001

震災発生時刻の5時46分で止まった置き時計が新しく寄贈されました。この時計は、地震の揺れで約1メートルの高さの棚から落下し、前面ガラスは全て破損。文字盤やフレームについた傷は、割れたガラスの欠片で付いたものです。また、落下の衝撃で時計の先が内側に折れ曲がっています。

この置き時計は、1984年に再開発された湊川貨物駅跡地(現ハーバーランド)の愛称が募集された際、採用された愛称の考案者に贈られたものです。時計の裏蓋には、「国鉄湊川貨物駅跡地再開発プロジェクト愛称募集記念 昭和59年11月」と書かれています。



▲ 傷だらけの文字盤と折れてしまった時計の針



▲ 時計の裏蓋

寄贈者の天川さんは、上で紹介した「阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク」等、まちづくりの場で活躍されています。